

2002年9月27日
FDK株式会社

FDKグループの変革の方向付けと事業構造改革のための施策

2000年後半から始まった「IT不況」は、今まで経験したことの無い範囲と規模で継続し、更に長期化の様相を呈しています。特に、FDKグループがコアビジネスのひとつと位置付けて強化を図ってきた光通信部品ビジネスは、通信市場の急激な落ち込みにより売上高が大幅に減少するとともに、早期の回復は望めない状況にあります。更に、その他の一般電子部品においても、中国への生産シフトや中国国内メーカーの急速な台頭等により価格競争が一層激化しており、市況の低迷と相俟って当年度の業績の大幅な悪化は避けられない状況にあります。

FDKグループは2001年度において、フェライト事業の中国へのシフトを中心とした構造改革を実行し、国内拠点の整理と特別転進支援制度の実施による人員の削減を行いました。しかし、市況の低迷と環境の変化は当初の予想をはるかに超えたものとなっております。そのため、環境の変化に対応し得るより強い事業構造を確立するため、変革の方向を明らかにするとともに、必要となる構造改革の施策を実行いたします。

1. 変革の方向付け

◆ 当社の強味を活かした事業展開

当社の強味である素材技術と高密度実装技術をベースとした総合力を活かせる電子部品・モジュールを中心に顧客ニーズに合致した製品を供給

素材 & 加工技術 + 回路 & 高密度実装技術

新しいデバイスによる顧客へのソリューションの提供

事業分野

< 中心分野 >

ブロードバンドネットワークおよびネットワーク周辺機器
通信ネットワーク、移動体端末、周辺機器

< その他積極的に展開を図る分野 >

車載機器

アミューズメント

環境

◆ 徹底した顧客指向と開発のスピードアップ

営業と技術の連携による顧客ニーズの掘り起こしとソリューションの提案

CEOを中心とした製品戦略会議設置による意思決定の迅速化

◆ ローコストマニュファクチャリングの一層の推進

海外拠点の効率的な活用

ローコストマニュファクチャリングに集中した生産技術力の強化

◆ カンパニー制の廃止

◆ 国内外拠点の機能分担の見直し、国内機能のスリム化

2 . 構造改革の施策

(1) 国内拠点のスリム化と事業基盤の強化

光 部 品 事 業：光通信の厳しい市場環境に対処するため、国内の徹底したスリム化と海外拠点の活用による「ローコストマニュファクチャリング」に集中する。（国内は開発のみとし、試作・量産機能は徹底した海外展開を図る。）

ハイブリッドモジュール事業：コスト競争力を高め事業基盤の強化を図るため、厦門、蘇州等の海外拠点の活用を一段と進めるとともに国内生産体制の縮小を図る。

(2) カンパニー制の廃止と組織の再編成

カンパニー制を廃止し、FDKグループの総合力をより効率的に発揮できるよう組織の再編成を図る。特に、徹底した顧客指向による製品開発、価格競争力、迅速な意思決定にもとづく事業展開により顧客満足度の向上を図る。

- ・ 事業部と電子、電池の二営業統括部に再編成
- ・ CEOを中心とした製品戦略会議の設置
顧客指向の製品開発の徹底と開発に関する迅速な意思決定
- ・ 購買機能を統合し購買統括部を設置
購買機能の統合による効率化を図るとともに、部材調達先や調達方法の検討、海外拠点での現地調達の拡大等、徹底したローコストマニュファクチャリングを推進。更に、環境に配慮したグリーン調達の拡大を図る。
- ・ コーポレート機能を担当する四本部を二統括部に再編成
組織の簡素化と効率化推進

(3) 人員の削減

(1)、(2)項を実行し国内における効率的な体制を構築するため、特別転進支援制度による人員の削減を図る。

・ 光部品事業の縮小、国内間接部門のスリム化（湖西地区）	150名
・ ハイブリッドモジュール事業の体質強化、国内スリム化（いわき地区）	150名
・ 機構改革、組織のスリム化（管理職）	100名
計	400名

なお、上記の構造改革施策実行による効果は約30億円/年と見込んでおります。

3 . 2005年度の経営目標

構造改革による事業体質の強化を図るとともに、新製品の開発・戦列化を強力に進めることにより、以下の経営目標を達成すべく努力いたします。

売上高 1,400億円
営業利益 80億円（営業利益率6%）

以 上